

ヒバクシャ署名873万人

連絡会発表 首長は1132人

ヒバクシャ国際署名連絡会は6日、広島市内で全国交流会を開き、事務局の川崎哲(あきら)さんが「被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名(ヒバクシャ国際署名)はこれまでに873万人分が集まった」と発表しました。このうち、知事・自治体首長の署名は1132人です。

連絡会では、年内に1000万を集めることを確認。2020年までに世界で数億人を目標に掲げています。

2018年8月7日(火)

原爆犠牲者に黙とう

全米でヒロシマデー ワシントンでは集会

【ワシントン＝遠藤誠二】73回目の広島原爆投下の日にあわせ全米各地で5日、核兵器廃絶を呼びかけるイベントが取り組まれ、首都ワシントンでは、マーティン・ルーサー・キング牧師の記念広場で市民が集会を開きました。

主催は、首都圏ヒロシマ・ナガサキ平和委員会。原爆が投下された日本時間の6日午前8時15分(ワシントン時間5日午後7時15分)に、同委員会で活動する広島出身の神田貴央氏の呼び掛けで、参加者が原爆犠牲者を悼み、黙とうしました。

集会では、反核団体NIRSのダイアン・ダリゴさんが、「国連で核兵器禁止条約が採択され約1年がたった」と述べ、米国や世界中の人々が核兵器のない世界にむけて連帯することを訴えました。



(写真)ヒロシマデーにあわせ集会を開き、核兵器廃絶をよびかける市民たち＝5日、ワシントン市内(遠藤誠二撮影)

2018年8月3日(金)

原水爆禁止世界大会国際会議 禁止条約発効へヒバクシャ署名を

共産党 緒方副委員長の発言(要旨)

日本共産党の緒方靖夫副委員長が2日開幕した原水爆禁止世界大会・国際会議に出席し、第2セッションで発言しました。要旨を紹介します。



歴史的意義をもつ核兵器禁止条約にこれまで59カ国が署名し、14カ国が批准しています。核保有国が条約への敵意を示し妨害するもとで、重要な前進です。



今年の原水爆禁止世界大会は、諸国政府の代表と反核平和運動が共同して核保有国に核廃絶を迫る方針を意見交換するうえで、大きな意義があります。

各国に条約の署名・批准を迫るには、被爆者が全ての国に力強く呼び掛けた「ヒバクシャ国際署名」が重要です。条約採択の大きな原動力となり、核兵器廃絶の国際的合意を勝ち取るための道筋を示しています。この署名を世界中に広げ、情勢を主体的に切り開いていきましょう。

歴史的な米朝首脳会談と南北首脳会談では、朝鮮半島の非核化と平和体制の構築を合意しました。北東アジアの平和への展望の一里塚に立ちつつ、それが確かな道になるようにたたかい続けることが、世界大会の新しい重要任務となっています。

和平への決定的な力は、諸国民の運動と世論です。戦争の瀬戸際だった米朝に新たな関係をもたらしたのは、「対話による解決」を求める諸国民の声の高まりでした。日本政府に条約への署名・批准と、憲法9条を生かして話し合いによる問題解決に進むよう求めていきましょう。

自国の運動に責任をもち、国際的な協力と連携を強めながら、新しい時代と世界と地域の平和を開拓していきましょう。